民報サロン

全てに意味がある

鈴木　恵

大抵のピアノ講師は子どもの頃からピアノを習い、専門の学校に進学して講師になりますが、私は少し変わった経歴を持っています。

女の子が生まれたら電子オルガンを習わせたいという両親の希望で、物心ついた頃から楽器に触れていましたが、レッスンに通っていたのは中学一年生まででした。その後は趣味程度に弾いてはいたものの、短大卒業後は音楽とは無縁の職を五年間転々とする日々を送りました。大手食品メーカー、医療事務、幼稚園教諭補助、企業事務…。どれだけいい加減な生活をしていたのだろうと、自分でも驚きです。

そんな私にも「こんな生活のまま一生終わらせていいのか」と、人生を見つめ直す機会がやってきました。自分に何ができるだろうと模索した結果、好きな音楽で生計を立てたいと考え、音楽専門学校に入り直す道を選びました。一番の難関は親を説得することで、社会人から再び学生に戻ることや上京することをどう伝えたら賛成してもらえるか考え、まずは資金計画書を作成することに。貯金は全くなかったので愛車を査定し、それを元手にアルバイトでどれくらい稼いで学費や生活費を賄っていけるかをまとめました。後はひたすら自分の熱意を伝える日々。人一倍心配性の母はしばらく戸惑っていましたが、最後は「挑戦して悔いのない人生を送ればいい！」という父の一言で、私の人生の大きな分岐点となる音楽人生が幕を開けました。

後戻りはできない最後のチャンスという覚悟があり、この二年間はアルバイトで生活費を稼ぎ、寝る間も惜しみ勉強と練習に注力しました。早朝、総菜屋で働いてから学校に行き授業と練習。夕方からはパン屋で働いて帰宅後も練習。その中でも総菜屋のおかみさんが毎日持たせてくれた弁当や、定期的に届く母の愛情が詰まった段ボール便の優しさは、忘れられません。

あれから二十一年。現在代表を務める音楽教室は生徒が約五十人在籍し、入会待ちしていただくまでになりました。起業も果たし充実した生活を送っています。当時を思い返すと、転職を繰り返していた時や再び学生になりたいと相談した時、両親はどんな気持ちでいたのだろうと考えることがあります。私にも二人の子どもがいますが、こんなに職を変える生活をされたら心穏やかではないでしょう。でもそれが無駄なことだったのか？　と考えると、全て今の仕事や人生に結びついているんです。失敗しないと成長しないと言いますが、私にとって無駄なようないい加減な五年間は、自分の進むべき道を見つけることができた、大切な時間になりました。それに気付いた時、物事がうまく進んでいる時も困難が降りかかっている時も全てに意味がある…。そう考えるようになりました。

ピアノ講師は、親以外で濃厚な時間をともに過ごす大人に当たるそうです。中学生以上のレッスンは時にお悩み相談室になったりしますので、思春期という多感な時期にどう真剣に向かい合えるかを考えています。自己肯定感を高められるように、意味があった半生を存分に生かしてサポートし続けたいと思っています。（いわき市石塚町、エモーション代表）